

れんそう会だより No. 41

発行
 浄土真宗本願寺派大分教区
 大海組れんそう会
 〒870-1142 大分市高瀬792
 各念寺 三原 興雄
 TEL 097-541-1430



ご講師 森 智崇師
 大分教区 玖珠組 光徳寺住職

れんそう会総会に参加して

令和元年五月三十日(木)三佐の圓光寺様に於いて、れんそう会総会が開催されました。この日は夏のような暑さにも関わらず参加者は百五名で行われました。司会は私で議事を進行していきましました。讃仏歌「真宗宗歌」で始まり、勤行「讃仏偈」は、田仲進さん(圓光寺門徒)の調声でした。大海組三義組長より挨拶があり、三重野会長からは「お葬式物語のDVDを鑑賞下さい。」と言う挨拶がありました。その後、議長に宮本英雄さん(福正寺門徒)が選任されました。議事進行をされました。平成三十年度行事報告を副会長佐藤正昭さん、決算報告を会計担当甲斐省二さん、監査報告を監事の網頭ツギ子さんより行われました。その後、令和元年度行事計画・予算審議が行われ満場一致で承認されました。議事終了後、玖珠組光徳寺住職森智崇先生によるご法話を頂きました。ご講話は「願いに生きる」です。先生は色々な事を例にあげながらお話しされました。例えば、お寺とあった時、建物なのか本堂



三浦 利文
 (圓光寺門徒)

なのか、普通は建物が想像されると思います。でも、お寺様にはご本尊があります。浄土真宗では、阿弥陀様が中心にあります。あなたを救う、お浄土に誰でも導くという理念があります。浄土真宗のお寺様に関わりが無ければ普通はなかなか理解されないでしょう。でも、お念仏を頂く者としては理解してほしい願いではないでしょうか。また、別れについて語っていた事について、自分を分かってくれる人がいる、その人が居なくなった時、現実味が無くなって分らない時、二十年前母親が七くなり、理解してもらった親がいなくなり、それが縁でお寺様にお参りするようになりました。自分が小さい頃から親が毎日お仏壇にお参りする姿が残っていたからだと思います。自分も抵抗なくお参りする様になっていきました。これは親の願いなのかよく分かりません。先生はこんな事も言っておられました。我々の人生はやり直しはできない、見直すことはできる。

合掌

連研と私

昔、毎朝祖母がご仏壇に向かいお経を挙げていた光景を当たり前のように見てきた記憶があります。子供の頃の私といえば手を合わせることで、お目当てのお供えのまんじゅうを頂くことが仏様と私の接点でありました。時が過ぎ成人を迎え盆供養や法事などでご住職のお話を聞く機会が増えてきました(足のしびれを我慢)分かったような分からないような中途半端なまま過ぎたような気がしますが、歳を取ると共に不思議と何かに頼りたくなる気持ちになるようで、数年前に大病を患い入院をしていた時、ご住職が見舞いに来て、「正信偈」の力セットを手渡し、私にお経を読むように勧めて下さいました。おかげで落ち込んでいた気持ちが少しづつではありましたが平常心が保たれるようになったと思います。しかし人は身勝手なもので、体調が良くなると共に仏壇の前に座る機会が減ってしまっていた時にご住職が「連続研修」という会があり、一年間浄土真宗



江川 啓二
(流芳寺門徒)

について学ばないかと誘われました。この時が私と連研のご縁の始まりでありました。お寺様のご講話、会員の方々の会話、礼儀作法等を学ぶ機会を与えていただき今思えば貴重な体験をしたと思います。この歳で今更聞けないことを教えていただいたこと、これまで何気なく扱ってきたお念珠、聖典、式章等々の気配りが何一つできていなかったことが恥ずかしく思いました。色々な大きな成果だと思いません。この会を幅広く広げていくため私のような素人でも分かるような取り組みをお願いしたいと思えます。阿弥陀様は全ての人に平等であり自ら手を差し伸べて下さっています。還暦を過ぎ仕事も実践から外れ、これまでの自分を振り返る時期になりました。我が家の仏様と向き合う余裕を持ちたいと思います。ご住職様有難うございました。

合掌

れんそう会活動を通して感じたこと



甲斐 省二
(各念寺門徒)

連研の終了時に、れんそう会入会の案内がありましたので内容も分からないまま入会しました。その後、各念寺様がれんそう会の担当寺院になる平成二十八年に、前任の委員の方が長く委員をされていたので、私にバトンタッチしました。委員になる前は、ただ単にれんそう会に籍をおいているのみで、活動については全く理解できていませんでしたが、委員として各念寺様の活動のお手伝いをさせていただけようになり、各念寺様に色々ご指導いただき、れんそう会について少しずつ理解できました。ただ、会の運営等については、連研・聞法会には及ばないように感じます。

れんそう会活動のお伝えさせて頂いた中で感じたことをまとめてみました。

一、研修会で行われました演劇と映画撮影に出演させて頂きました。映画ではなかなかOKが出ず、何回も撮り直しになり、監督・カメラマンの方々に迷惑をおかけしましたが、私にとっ

ては、二度と無いような経験をさせていただきました。映画撮影には多くの会員の方々に参加して頂き、会を運営していくためには多くの方々の協力が必要であることを改めて認識しました。

二、研修旅行では、案内役をさせて頂いたのですが、参加された皆さんが礼儀正しい方たちばかりで、下手な案内

内役を温かく見守っていただき有難うございました。これまでに参加したことのあるバス旅行等では、集合時間には集まらない、車内で飲酒し騒ぐ、行先・費用などで文句を言う等が当たり前でした。れんそう会の皆さん方の団体行動に接して礼儀正しさに感銘を受けました。

三、私のれんそう会だよりへの寄稿は、三回目ですが、文才がない私には標題に合った文を纏めるのに苦労しています。れんそう会だよりにはこれまで多数の方々に寄稿いただき、れんそう会だよりを発行することができましたことは感謝に堪えません。れんそう会だより原稿作成の時に寄稿いただいた文を入力しながら読ませていただきましたが、感動を憶えるような内容を書かれていらっしゃる方が多くおられ見習えればと感じています。

四、担当寺院の委員が会計を担当するということ、委員即会計となりましたが、これまで自治会等での会計の経験がありましたので、会計を担当することに特に困難は感じませんでした。れんそう会独自の会計方法があり、理解できずまで苦労しましたが慣れれば、入出金・台帳作成等は比較的容易でした。

合掌

11:30 原尻の滝着



見学



昼食



12:30 原尻の滝 出発



13:00 竹田市着 竹田市街散策





15:00 竹田市出発
中九州道経由

16:30 妙蓮寺様着 降車



17:00 各念寺様着 降車

あ～ 楽しかった!!(予想)

れんそう会研修旅行予定
 [法話と竹田の散策日帰りバス旅行]
 ・開催日
 令和元年 10月30日(水)
 ・募集人数
 40名
 ・参加費
 4,500円
 ・参加募集締切
 8月31日(土)
 ・申し込み
 募集要項は所属寺院様
 経由で配布
 所属寺院様経由で申込み

私達はなぜ旅に出るのでしようか。非常を味わいたいから、おいしいご飯を食べたいから、さまざまなおいしい飯を食いたいです。しかし一面、旅にできる私には帰る家があり、そこが安心できる場所であると確認する為なのかもしれません。さて、浄土真宗では私達の人生が死で終わる旅ではないことを教えています。私達が帰るところは阿弥陀様がいらっしゃる

お浄土です。またお浄土はおなじお念仏申すものが再びあわせていただくこと出来る場所であります。祖師がたはお浄土を家郷とか本家とよんで懐かしんでおられました。十月三十日、皆様と一日研修旅行でござります。縁に合せていただくことを楽しみにしております。

れんそう会担当 三原興雄 合掌

07:50 妙蓮寺様 集合



妙蓮寺様本堂

08:00 妙蓮寺様 出発



08:30 各念寺様 集合



各念寺様本堂

08:40 各念寺様 出発



大分川ダム経由
442号経由



大分川ダム 道の駅(建設中)



09:40 豊後大野市 源勝寺様着



11:00 ご法話を頂いた後、出発



れんそう会会員エッセイ (祖父の思い出)

仏社会、れんそう会とご縁ができて、四十年前に亡くなった祖父のことが、やたら思い出され、今回なんでも自由にお書きください、と言うことで祖父のことを書かせて頂きます。

私が小学校一年の時に父が七くなり、母が勤めに出始め、私たち兄弟は祖父母に育てられました。祖父は台南師範で教鞭を取っていたので、教育熱心で厳格な明治の男でした。母の代わりにPTAに来るし、教科書の全てに目を通します。本や文具は買ってくれるが、菓子やおもちゃは買ってくれませんでした。グローブ、バットをねだった時、何日かして古いポロポロのグローブとささくれ立ったバットが納屋に置かれていました。

「じいちゃん、クリスマスでみんながサンタクロースからプレゼントをもらったらしいよんのに、うちにはなぜこんの？」 「うちは仏教徒じゃけん来んのや！」 その当時の我が家は、苦しかったのだろう。私も強くダダをこねられなかった。今の私の孫に言ったら何と返ってくるだろう。私たち兄弟が、風呂に入っていると、百



安部 博史
(専想寺門徒)

まで教えなさい、と必ず言われ、そのころ覚えてたのダルマさんが転んだを大声で外に聞こえるように言う、「なまんだぶ、なまんだぶ」を十回言ったら百になるから、今度からこの言葉を言いなさい。

祖父と一緒に遊びに行った思い出は全くないが、専想寺様の脇の浄福寺様(今は在りません)にはよく連れていかれました。祖父の叔父が畠山に養子に行ったのは後で知りました。戦争で七くなった生徒、友人、兄弟、両親、そして息子の死、沢山の死に接し、我が家の墓参りだけでなく、お寺さんに行っていたのでしよう。

祖父は、お風呂に入る時、布団に入る前、畑仕事の一休み等、口ぐせで「なまんだぶ、なまんだぶ」 汽車に乗り椅子に座るのに「なまんだぶ、なまんだぶ」感謝のなまんだぶに変わり、九十一歳で往生し、祖母も八十歳で半年後についていきました。

南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏

れんそう会総会の思い出アルバム



質問・意見



議案審議中



会場寺院 圓光寺様



出席会員の皆様



れんそう会を盛り上げましょう。

組長挨拶



お葬式物語のDVDをご覧ください。

会長挨拶

れんそう会員を募集中です。



常にお念仏のある生活を送って下さい。

会場寺院(圓光寺)
藤並晃照住職挨拶

編集後記

今季で四年目の任期を迎える担当です。一年目の研修会は「弔辞物語」を行い、二年目は「研修旅行で日田に行きました。三年目は「お葬式物語」を撮影し、四年目は竹田へ研修旅行です。来年度は新しいれんそう会担当の方が研修を企画しますが、れんそう会員の皆様にお願いです。企画を提案していただけないでしょうか。れんそう会の良さは僧侶だけでなく、会員の方々が一緒に企画を作ることが出来る、とてもポジティブな特徴があります。同じビジョンに向かって走り出す時、気づきや喜びというお土産がついてきます。何かいい企画を思いついたら、是非教えてください。

れんそう会担当 三原興雄 合掌